

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年11月17日
タイトル	今年もみんなで給食米を刈ったよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年10月10日（火）福山市立東村小学校全児童44名と福山市立東村保育所児童16名が、学校給食食材納入グループ「若草会」の学校農園約20aのほ場で、給食で食べるお米の稲刈りをしました。



週末に降った雨の影響で地面はぬかるんでいましたが、天気がよく絶好の稲刈り日和で子ども達が小学校と保育所から元気に歩いて来ました。

ほ場に到着すると全員で整列し元気一杯挨拶し楽しみにしていた稲刈りの始まりです。まず、学校給食食材納入グループ「若草会」代表の杉原直道さんより「今年は病気も虫も大丈夫！9月の台風も心配したけど、小学校のみんなが立てたかかしはビクともしないで倒れませんでした。おかげで米がよくできました。」と言われました。子どもを代表して「田植えの後、台風で稲のことが心配だったけど、こんなに立派に稲を育ててください若草会の皆さんありがとうございました。」と感謝の気持ちとみんなで稲刈りした新米を食べるのが待ち遠しいと挨拶がありました。

子ども達が真剣に稲刈りをし、ふざけたりケンカしたりしないのでケガもしないし上達するのもすごく早いのだと思いました。

地域の方や若草会の方が声をかけながら、ほ場の約5分の1を手で刈りました。校長先生も一緒に慣れた手つきでザクザクと素早く沢山の稲を刈っておられました。



いよいよ稲刈りです。子どもが使いやすい小ぶりのカマを持って、高学年の4、5、6年生が一行に並んで田んぼへ入ります。田んぼは長靴がすっぽり埋まる場所もあるほどぬかるんでいましたが、子ども達は慎重に歩いて稲を刈り始めました。5、6年生は慣れた手つきで、ザクザクと小気味よく刈っていきます。4年生も最初はぎこちない手つきでしたが、すぐに上手になっていきました。

途中から保育所の年長組もカマを持って稲刈りに参加しました。先生や若草会の方に教えてもらい上手に稲刈りをしていました。年中組は「来年は稲刈りをするぞ」と思いながら稲刈りの応援をしていました。

地面がぬかるんでいて刈った稲を直接置くことができないので、低学年の子どもが田んぼに入って高学年が刈った稲を受け取り畦まで運びました。畦では若草会の方が束にしています。



年々子ども達の稲刈りが上達していて今年は稲刈りのスピードが早く感じました。どんどん刈っていくので東にする方が間に合わないようでした。足元がぬかるんでいて転げる子が続出！歩かない方がいいと稲の束をバケツリレーのように運んでみんなで協力してはざ掛けにしました。

刈った稲は、束にしてはざ掛けにしていきます。はざ掛けにする土台は竹を3本縄で縛ったもので、この3本足を稲の株の上にし沈まないようにすると倒れにくいそうです。最近の稲刈りは、はざ掛けにすることが少なくなって農業体験が伝承の場になっていると思いました。

はざ掛けを終えると東村小学校の校長先生より「田植えや稲刈りの貴重な体験をさせていただいている若草会や地域の方へ感謝すること、毎日給食でおいしいお米をいただいております、収穫の喜びと感謝の気持ちを思い出し大切に食べることを」をお話されました。

その後、子ども達へは、給食のかわりに大きなおむすび（高学年180g 2個、低学年150g 2個）が配られ、地域の方々には若草会から新米を使ったおむすび弁当が配られ、子どもも大人も一緒になり稲刈りをした田んぼを見ながら大きなおむすびをほおばりました。新米のおむすびはとってもおいしかったです。

このおむすび弁当には、東村小学校の児童から手書きのメッセージが添えられてあり「こんなことが書いてあるよ。」と話が弾みました。若草会や地域の方がとても嬉しそうにメッセージを読んでポケットへしまっておられ、子ども達が地域全体に見守られ心豊かに成長していることを実感しました。

おむすびを食べ終えた子ども達から、自然と歌声や田んぼや用水路で遊ぶ笑い声が聞こえ「子どもの声はええなあ。」と大人も笑顔になり疲れがどこかにいったようでした。



青空の下で食べるおむすびは格別！



何十枚もの手書きメッセージに感動！

東村小学校では、収穫した米を使って子ども達が調理実習をし若草会や地域の方を招いて「収穫祭」をするそうです。ぜひ取材したいと思います。